

東日本大震災義援金 たくさんの善意をありがとうございます

福島県支部に寄せられた義援金は765,545,624円(1月20日現在)
日赤本社から自治体を通じて全額が被災者の方々へ届けられます。
(赤十字の活動資金として使われることはありません)

義援金の流れ



福島県豪雨義援金 について

7月28日からの記録的な大雨は、会津地方に大きな被害をもたらしました。当支部では、7月30日只見町に救護班1班を派遣するとともに救援物資の輸送を行ったほか、「福島県豪雨義援金」の募集受付を行いました。

受付金額
13,342,653円

は、全額福島県の配分委員会に送金しました。

日本赤十字 福島

平成24年2月

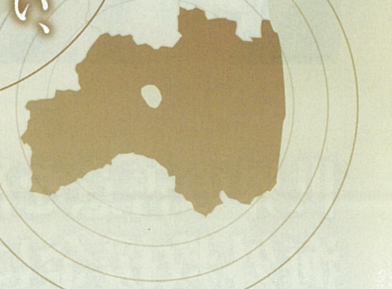
第36号

題字：日本赤十字社福島県支部長 佐藤雄平(福島県知事)

東日本大震災 赤十字の使命をかけた 支援活動



いのちを救い、
健康を守る
医療救護活動



東日本大震災が発生してまもなく1年になろうとしています。震災で亡くなられた方々へ改めて追悼の意を表すとともに、被災された皆様へ心からお見舞い申し上げます。

日本赤十字社福島県支部では、発災直後から各都道府県支部の応援のもと、救護班を各地に派遣、被災者の診療にあたりました。派遣した救護班数131班、診療した被災者数は約8千人に及んだこの活動は、6月末まで続きました。また、5月からは新たに原発事故による避難住民の一時帰宅を救護班がサポートしており、現在も継続中です。これら被災者のいのちと健康を守る医療救護活動のほか毛布等救援物資の配付や義援金の募集受付を行いました。さらに県内各地の赤十字奉仕団が、さまざまなボランティア活動で被災者を支援しました。

これからも当支部では、仮設住宅の入居者や高齢者、子どもたちのサポートなど被災された皆様を応援する復興支援事業にも全力で取り組んでいきます。

受章者の紹介

皆様からのご支援に感謝しております。

(平成22年11月1日～平成23年12月31日) 順不同・敬称略

厚生労働大臣感謝状 年間100万円以上

- 郡山市 株郡山大新青果
- 会津若松市 小山 繁信
- 須賀川市 金子 芳弘
- 鮎川村 矢吹 三郎

日本赤十字社社長感謝状 金色有功章受章後累計50万円の都度

- 郡山市 山下 茂
- いわき市 株クレハ生産本部いわき事業所

金色有功章 累計が50万円以上

- 福島市 鈴木 祐子
- 喜多方市 渡部 吉晴
- 郡山市 株エンパイロテック
- いわき市 日本化成株小名浜工場
- 郡山市 株郡山大新青果
- いわき市 株夕月
- 郡山市 千葉 良造
- 鮎川村 矢吹 三郎
- 須賀川市 金子 芳弘
- 広野町 金澤 長

銀色有功章 累計が20万円以上

- 福島市 福島南ロータリークラブ
- 喜多方市 齋藤 安功
- 福島市 株アポロガス
- いわき市 株日星製作所
- 福島市 村山 陽一
- いわき市 小名浜石油株
- 福島市 高橋 孝治
- いわき市 株佐藤コンサルタント
- 福島市 舟山 次郎
- 小野町 郡司 一
- 郡山市 根本 春芳
- 小野町 宗像 光吉
- 白河市 白河農業協同組合
- 猪苗代町 大友 美樹
- 会津若松市 渡部 博巳
- 柳津町 小川 茂正
- 会津若松市 鈴木 光雄
- 飯館村 林 絹子
- 会津若松市 関 正仁
- 富岡町 双葉工業株
- 会津若松市 芳賀 敬子
- 富岡町 桂建設株
- 会津若松市 上野 キヨ子
- 喜多方市 山口 勇
- 喜多方市 長澤 重雄

平成22年度 決算報告

平成22年度事業報告及び各会計収支決算について
次のとおりいずれも承認されました。

平成22年度 医療施設特別会計歳入歳出決算報告

収益的収入	収益的支出	差引
6,432,649,595円	6,368,595,531円	64,054,064円

平成22年度 血液事業特別会計歳入歳出決算報告

収益的収入	収益的支出	差引
3,253,836,120円	3,275,488,648円	△21,652,528円

平成22年度 一般会計歳入歳出決算報告

歳入	歳出	翌年度繰越金
348,264,774円	315,371,958円	32,892,816円

歳入合計 348,264,774円

- ① 一般社資(社費、寄付金)収入 280,655,319円
- ② 法人社資収入 33,899,248円
- ③ その他収入(繰越金等) 33,710,207円

歳出合計 315,371,958円

- ① 災害救護事業と装備費 37,115,056円
- ② 救急法等講習会費 18,839,690円
- ③ 赤十字奉仕団(ボランティア)育成費 20,766,725円
- ④ 青少年赤十字(JRC)育成費 26,681,587円
- ⑤ 医療事業費・血液事業費 9,536,171円
- ⑥ 国際活動費 3,500,896円
- ⑦ 救護看護師養成費 7,809,620円
- ⑧ 地区・分区(市町村)活動費 53,548,039円
- ⑨ 日赤本社活動費 44,694,707円
- ⑩ 社員増強・社資募集等経費 31,355,722円
- ⑪ 社会福祉費 1,546,890円
- ⑫ 支部業務管理費 59,976,855円

原発事故避難住民の 一時帰宅を 救護班がサポート

警戒区域内に一時帰宅する避難住民のため、5月22日から中継基地に救護所を開設し、帰宅住民の体調不良などに備えています。特に夏場は猛暑により体調を崩す住民も多く懸命な救護活動を続けました。写真(上)は、田村市古道体育館。写真(下)は現在日赤が担当している南相馬市馬事公苑の様子。この活動は現在も継続中です。



世界の善意を被災地へ 海外救援金による 復興支援事業

日本赤十字社は、世界の赤十字社から寄せられた「海外救援金」をもとに仮設住宅居住者や高齢者等への支援、教育や医療支援などさまざまな復興支援事業に取り組んでいます。福島県内でも仮設住宅での家電6点セットの寄贈、仮設コミュニティセンターの開設、スクールバスや体育館の整備、プレイランドの設置、肺炎球菌ワクチン予防接種など多くの事業を実施しています。

赤十字は救護活動や復興支援を 全力で展開しています



支え合う力が赤十字の誇り 奉仕団のボランティア活動

「少しでも被災者の役に立ちたい」そんな気持ちを胸に県内の赤十字奉仕団が発災当初から様々なボランティア活動を展開しました。炊き出しで提供した温かい食事は、多くの被災者に喜ばれました。写真の会津若松市赤十字女子奉仕団は3月16日から1ヶ月間、毎日300食の炊き出しを継続しました。



福島の復興のために青少年赤十字の 高校生メンバーが都内で活動

福島県産の農産物の風評被害を解消しようと、青少年赤十字メンバーの高校生60人が都内で県産梨の宣伝活動をしました。同時に東日本大震災義援金の募金活動も行いました。福島の復興のため少しでも力になろうと頑張ったメンバーたちの顔は達成感にあふれていました。



仮設住宅のコミュニティー作りに一役 「赤十字にこここ健康教室」

仮設住宅の入居者を対象に、地元の赤十字奉仕団の協力のもと、健康で元気に過ごすための知識や技術を学べる「赤十字にこここ健康教室」を開催しています。知り合いがいないことでこもりがちになる高齢者が、近所に暮らす人たちとコミュニケーションを図る機会にもなっています。

10月30日福島市南矢野目仮設住宅集会場で開催された教室には、赤十字広報特使で女優の藤原紀香さんも訪れ、住民の方々へのリラクゼーションを手伝いました。



救援物資を配付

発災直後から毛布や、緊急セットなど日赤が全国に備蓄している救援物資を配付したほか、企業等から寄付提供の申し入れのあった支援物資の配付も行いました。

